

最上地区の県立高校再編整備計画<第2次計画(骨子案)>に係る地域説明会記録要旨
【最上町会場】

- 1 日時 令和2年9月4日(金) 19:00~20:30
- 2 場所 最上町中央公民館
- 3 出席者 地域の方々47名
県教委 片桐教育次長、生島高校改革推進室長、外 事務局職員5名
- 4 内容 室長から説明後、質疑応答
- 5 質疑応答概要

(質問・意見)

- ① 新庄南高校と新庄北高校は学校が担う役割が違う上に、学力差がある。その2校を統合して生徒のニーズにあった教育ができるのか。
- ② 夜間定時制であるからこそその役割があるはずであり、昼間部への移行が適切なのか疑問である。意見聴取における意見はどうだったのか、あるいは現在の夜間定時制の生徒の意見を聞いたのか。

(県教委)

- ① 現在の学校数を維持して、各高校の入学定員をさらに削減していけば、各校の規模がより縮小し、高校として望ましい教育環境を維持する上での様々な課題が生じる。統合により、ある程度の学校規模を確保できれば、多くの教員を配置できるため、開設できる科目の種類が多く、生徒の多様な進路希望に対応できる充実した教育課程の編成が可能である。つまり、学校数が減っても、学びの選択肢を増やすことができる。就職、公務員、四年制大学等の多様な進路に対応することができる。
- ② 夜間定時制のニーズはゼロではないが、夜間の時間帯であるため、通学に公共交通機関を利用しにくく、通学可能エリアが限定されることや、日中の企業見学やインターンシップなどの教育活動に取り組みにくいなど、デメリットがある。よって、昼間定時制については、生徒の生活リズムが安定し、夜間の通学の負担を軽減できることや、校外での体験的な活動を取り入れるなど教育の幅を広げることが期待できるなど、メリットがある。最上地区全体からの入学の受け入れなどに対応するために、昼間定時制への移行することにした。定時制には積極的な理由で志願する生徒もいるはずである。

新庄北高校定時制の生徒や保護者からはアンケートをとっていないが、新庄北高校定時制に在籍する生徒が定時制の昼間化について研究を行った。酒田西高校を昼間に移行する際には生徒から意見を聞いている。

(質問・意見)

- 遊佐高校に名古屋市等からの県外入学者がいるということを知った。最上校には他の市町村からの入学者もいて遊佐高校と似た状況にある。遊佐高校のように他県から生徒募集をするに

はどのようにすればよいのか。

(県教委)

- 遊佐高校は県外募集しており、本年度は県外から7名入学し、秋田から2名、その他5名である。普通科は学区制があるため、庄内地区と置賜地区からは入学ができないが、県外募集は条件を満たせば可能である。条件は、入学者選抜の直近の5年間の最終倍率の平均値が1倍未満の学校のうち、加茂水産高校のように県内唯一の学科であること、または、1学級規模の学校で地域との連携が確立している学校である。校長が県に申請して認められれば実施できる。

(質問・意見)

- ① 県外募集は普通科の最上校では実施できないのか。
- ② 新庄北高校と新庄南高校の統合校は高度な学びを行う進学校として、神室産業高校は専門学科としてエキスパート育成するという特徴をより明確にした学校づくりを期待する。

(県教委)

- ① 県外募集は普通科でも可能である。今は遊佐高校と加茂水産高校が全国募集をしており、現在の中学校3年生から山形北高校音楽科、中学校2年生から小国高校が募集を開始する。小国高校は普通科であるが、「地域との連携が確立している」という条件に当てはまる。
- ② 貴重な意見として頂きたい。

(質問・意見)

- ① 資料からは学校が小規模化すると切磋琢磨できないと言っているように見えるが、私はそう思えない。切磋琢磨をどう考えているのか。また、コロナ禍でいろいろ見直しが進んでいるが、再編整備の必要性の理由や少子化への対応を見直すつもりはないのか。
- ② 昼間定時制の特徴に特別支援教育が入っていないが、行うつもりはないのか。最上校は特別支援教育を行い、生徒を育てている。

(県教委)

- ① もちろん小規模校でも切磋琢磨することができると考えている。地域に密着している学校が多いので、地域の大人と多く関わることで、多様な価値観に触れることができる。最上校では生徒を大人扱いし、町全体で育ててくれている。生徒の多様性を認め、人間的成長を促してくれていると感じている。自治体に唯一の高校の役割が大きくなっており、地域全体で小規模校の魅力を高めていってほしいと思っている。
- ② 定時制の特徴に特別支援教育についての記載がないのは、当然行うものだからである。県としては特別支援教育は特定の高校で行うのではなく全ての高校でするものと考えている。定時制は4年間かけて、個人のペースに合わせてゆっくりと学校生活を送ることができるため、課題を抱えた子供たちに向いているところはある。最上校は特別支援教育に実績があり、そのノウハウは他の学校に活かされている。最上校の通級指導は文部科学省の指定を受け、研究実践

を行い、専門的な知見が得られている。それを踏まえて、県内の全ての地区に通級指導を導入した。最上校での取り組みをベースに特別支援教育の実践が全県に広がっている。

(質問・意見)

- 3分校に地域連携協議会を設置し魅力化等を3年間実施するということだが、実施後、2年連続して定員の2分の1を満たさない場合、統廃合等の判断は連携協議会が行うのか、県教育委員会が行うのか。

(県教委)

- 町と改めて話し合った上で、県教育委員会が判断することになる。

(質問・意見)

- ① 最上校で給食を実施できるのか。
- ② 最上校で町の給食センターを利用することは可能か。

(県教委)

- ① 高校において国の補助等を受けて給食を実施できるのは夜間定時制だけである。昼間部は給食の制度がないためできない。ただし、高校に食堂を入れて業者が食事を提供することは可能である。生徒が実費負担して、毎日定食などの提供を受けることは可能だ。
- ② 町の給食センターで希望する生徒の食事を提供することは、PTA等と学校で協議し、体制を整えれば可能であろうと思われる。

(質問・意見)

- ① 国勢調査によると最上地区は県内でも特に人口の落ち込みは大きい。この地区は県民所得も県平均より低い上に、若者も大きく減少しており、新庄市内高校の統廃合は正解だと思う。新庄市内の高校と、新庄市以外の最上地区7町村との関わりが薄く、地区外や県外に進学した後、地元に戻って来る際に、そこに戻って来ない。よって市内高校と町村の関わりが必要だと考える。地域との密着という点では、職業高校にはもっと力を入れてほしい。

また、市内2校に再編するのは「人口が少なくなるから」ということは十分わかった。一方で、2校になったからこそできること、新たな魅力のようなものが全く伝わってこない。もっと明るい材料を提示してほしい。

- ② 通学手段については、私立の新庄東高校は通学バスを出している。一方で公立高校には公共交通機関のJR等で通っているが、ダイヤ改正で利便性が低下したり、風・雪ですぐ運行休止になったりする。高校生の通学環境を整える必要があると感じている。
- ③ 地域連携協議会では3年間魅力化に取り組むということだが、県はどのような関わりをしているのか。県の姿勢や考えを聞きたい。また、協議会は1年に何回開催し、各連携協議会を集めた全体会のようなことは開催するのか。

(県教委)

- ① そのように努めていく。
- ② 御意見として頂きたい。
- ③ 地域連携協議会に対して。県は研究結果の提供や、当該校長への助言等をしているほか、協議会の運営資金を出しており、会議には県教育委員会の担当者も参加している。町からも支援していただき、県、校長、町で一緒になって取り組むことになっている。そして、県は、町と県が同じテーブルにつけるようにし、町に当事者として関わられるような仕組みを作った。町からも良い考えを出していただき、場合によっては県教育委員会以外の部局からも協力を得ることもできる。また、年間で数回の協議会を開催するが、全体会はする予定はない。最上地区は3町に協議会が設置されており、それぞれが連携することは可能であり、そこは柔軟に考えてもらいたい。

(質問・意見)

- ① 特別支援教育の充実や、様々な入学動機やニーズに対応することが、定時制だけにとどまっているように見えて残念に思う。特別支援教育の充実を再編整備の前面に出してほしい。教員への特別支援教育研修も充実してほしい。
- ② 様々な制約を設けず、規制緩和をしてほしい。小国高校や遊佐高校のように魅力化を図り、県外募集を行うことを学校の判断に任せるようにしてほしい。
- ③ 新庄北高校の校舎はまだ使えるということだが、やはり古い。新しい校舎を建設してほしい。

(県教委)

- ①② これらは意見として頂く。
- ③ 新庄北高校校舎は、昭和47年に建設し平成6年に大規模改修をしている。県の財政的な方向性や国の方針では、施設を改修しながらできるだけ長く使用するとしている。いわゆる長寿命化というものである。新庄北高校校舎は古いのは確かであるが、構造体がしっかりしており十分使用できる。もちろん統合時に新しく建設できればよいが、今申し上げた理由等によりできない。ただし、統合した令和8年のその先については、しかるべき時期に何らかの検討が必要であると思われる。

以上